

せんでい
剪定ばさみ (庭師のワンポイントアドバイス)

「竹」

「タケノコが畳を突き上げて出てきた。」という話を聞いた事があるでしょう。普通の木が、光のない所では光合成が出来ず、生長しないのに対して、タケノコが、光が入らない暗闇でも伸びることが出来るのは、生長に必要なエネルギーを、地下茎を通して他の竹から貰っているからなのです。

ですから、庭に“はびこった”竹を調整することは難しく、一度根絶やしにするしかありません。

方法は、地下茎のエネルギーが竹に上がっている6~7月の“この時期”に一度竹を全伐してしまいます。

これで翌年には、タケノコが出なくなります。

新たに竹を植栽するときは、「これ以上は広がって欲しくない」と思う位置に地上50~60cm位の深さまでトタンなどでバリケードを作ります。

これで、地下茎の生長が遮断されて、辺り構わず頭を出すタケノコに悩まされる事も無くなります。



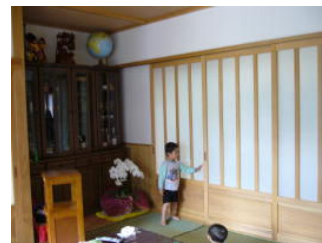
一建落着

G 邸 (長湯)

居間と台所を一部屋に。



対面キッチンの前には、半円のカウンターテーブルを。「仲良しの奥さん同士、お顔を見ながら話せて良いのよ」と奥様。気に入って頂けた様です。



畳敷きの居間とフローアのキッチンを段差無しのバリアフリーに。



重厚なカウンターは、御主人が大切に育てた山の木で作りました。

I 邸 (長湯)

新しく設けた天窓からの陽光がダイニングいっぱい広がります。「とっても明るくなって気持ちが良いわ！」奥様にも喜ばれました。

発行人 川野和男
 編集 川野組内
 家造り匠の会

☎ 0974-62-2416
 ✉ tkk22@theia.ocn.ne.jp
 🌐 <http://www6.ocn.ne.jp/~k-kawano>



なごみ

『七夕』

七夕さまっていえば、万葉集にも詠まれている物語としても夏の風物としても、詩情ゆたかな伝統行事。

ささの葉	さらさら	のきばに	ゆれる
お星さま	きらきら	きんぎん	砂子
五しきの	たんざく	わたしが	かいた
お星さま	きらきら	空から	みてる

昔の親や教育がすごかったのか、それとも子供の方？あるいは社会全体が、情緒に満ち、知性に溢れていたのか。

のきばという漢字、五しきや砂子の意味がわかりますか。子供たちは、普通にそんなことを話し、楽しみ、知らない内に、多くのことを身に付けていったのでしょうか。

ゆたかな時間が、流れていますか？

旬の版画



午後の岡神社
 猫が一匹 日向ぼっこ

私に気付くと
 サッと身構え 戦闘態勢
 「来るなら来い！」

そして走り去って行きました

ちょっと喜になるお話 日本の家（ドイツ）

ドイツ南西部、スイスとの国境に位置するバートクロツインゲン市。平成元年に旧直入町との交流が始まり、以来、新竹田市となった後も、変わらぬ友好関係を築いています。

バートクロツインゲンは、ドイツでも有名なワインの産地。そしてもう一つ、温泉療養都市としても広く内外に知れ渡っています。



昨年5月、その温泉保養施設ヴィタ・クラシカから、「木材も瓦も総て日本のものを使った純日本建築の建物を作って欲しい」という依頼が竹田まちなみ会に舞い込みました。メールを頂いた時点では、『茶室』という日本語訳が付いていましたので、7月にヴィタ・クラシカの館長一行が来竹した時には、竹田荘などのお茶室を幾つかお見せしたのですが、反応がイマイチのご様子。



さてどうしたものか、取りあえず竹田の観光案内でも、とお連れした広瀬神社の境内から「ああ、これです！この建物です」と館長が指差したのが岡神社の屋根でした。そこで再度話を聞くと、望んでいるのは『お茶室』ではなく、『休息室』だということが判明しました。



その時打ち合わせた「屋根は“入母屋”」「内部に柱がない」「梁が見える」「滝廉太郎記念館のように竹を使う」という要望を取り入れデザインしたのが、釘を一切使わない“差し鴨居”という工法（神社の鳥居と同じです）を用いた6m×8mの入母屋の建物です。内部の柱は極力はぶき、8mの梁で屋根を支えるようにしました。

床は杉の縁甲板、内壁にも杉の化粧板を使用しました。天井は、屋根裏に葎（ヨシ）を張り、それを竹の竿縁で止めるようにして、梁などの小屋組が良く見えるようにしました。

さて、日本建築となれば、現地で建設に携わるのも日本の職人でなければ出来上がりません。そこで、今年4月、日本で加工した部材が現地に到着するのに合わせて大工、屋根職人、設計士を派遣し、苦勞の末、本当に苦勞の末に

無事、日本の家を完成

させました。



休景たいむ 「いっぷく」時間の一枚



踏切の警報機の音に顔を上げると、丁度、上り列車が玉来川の鉄橋に差し掛かるところでした。

竹田市民の誰もが、決して忘れることのない未曾有の大水害は、18年前の7月2日。

当時は、この鉄橋も流されて、無惨に折れ曲がった線路が水害の凄まじさを物語っていました。

里山探訪 やまの恵みたち

奥山にひっそりと咲く

『紅花山芍薬（ベニバナヤマシャクヤク）』

この時季、白い花が多い林床に、一際目立つピンポン球大の花を付ける希少植物の一つです。

花の命は短いものの、今日の環境変化にも負けず、たくましく咲いています。



ベニバナヤマシャクヤクの花